

留学報告書

記入日：2024年5月15日

東京電機大学での情報	
学部／研究科	システムデザイン工学研究科
学科・学系／専攻	デザイン工学専攻
留学期間	2023年 2月 16日 ～ 2023年 12月 3日

留学先情報	
大学・機関名	クイーンズランド工科大学
国名	オーストラリア
留学先での所属・専攻・身分	所属（学部等）： 専攻： 在籍身分：留学生 アプライしたプログラム：U094 University Study Abroad Year (※私がアプライした Study abroad program は特定の学科や専攻に所属せず、基本的に自由に授業が履修できるものでした)

留学準備	
事前語学学習方法	電大が長期休業中に行う IELTS 対策講座を受講 IELTS 対策講座で使用したテキスト・参考書 IELTS 対策のノウハウを記載している Website(IELTS Liz など)
準備で苦労したこと	IELTS のスコアを Overall 6.5 にするまでが大変でした。 特に Writing の対策が難しかったです。Write & Improve with Cambridge というサービスを利用して練習していました。
ビザの種類	学生ビザ Student (subclass 500)
申請先	オーストラリア
提出書類	<ul style="list-style-type: none"> ✓ パスポートのカラーでスキャンした PDF ✓ QUT からの合格通知 (Letter of Offer) のスキャンした PDF ✓ 入学許可書(CoE) スキャンした PDF ✓ GTE (Genuine Temporary Entrant) の draft ✓ 海外留学生健康保険 (OSHC) の情報(Your Policy Certificate)の PDF ✓ Google 翻訳で英語に訳した後の銀行の残高を示したスクリーンショット

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 助成プログラムまたは奨学金の証拠ドキュメント(国際センターの方より Scholarship Certificate を発行してもらいます) ✓ 家族の生年月日と英語の綴りを控えたもの(記入する必要があるなので、あると便利です)
申請費用	656.57 AUD (約¥64,738) ※カード支払いの手数料込み
申込手順	<p>① オーストラリア政府の移民局 Department of Home Affairs の Website(https://immi.homeaffairs.gov.au/visas/getting-a-visa/visa-listing/student-500)にアクセスし, Apply ボタンをクリックする</p> <p>② ImmiAccount(https://online.immi.gov.au/lusc/login)に遷移するので, Create ImmiAccount をクリックし, 必要項目を入力し, アカウントを作成する</p> <p>③ メールボックスを確認し, メールに記載されている URL にアクセスし, メールアドレス確認を済ませる</p> <p>④ My applications タブの New application->Student Visa(500)の順をクリックし, 申請を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 提出書類に挙げた書類内容を記入していく(以下, 自分が申請時に戸惑った箇所を書いていきます) ➤ “Non-accompanying members of the family unit”では同行家族がいるか?という問いに対し No を選択し, Other family member として 日本に居る家族の姓名と自身との関係(父, 母, 兄/弟/妹/姉など)を入力する ➤ 過去10年の渡航歴は旅行含め, パスポートの出入国欄で確認できたものや, 記憶を頼りに記入する ➤ Sector はアプライしたプログラムには, 学位授与等が無いので Non-award sector です ➤ 次回以降 ImmiAccount にログインすると途中から記入できるので, 一度にすべて記入する必要はないです
ビザ取得所要日数	ビザ申請してから1分ほどで Granted されました
大使館等での面接	<p><input type="checkbox"/>有 <input checked="" type="checkbox"/>無</p> <p>有→聞かれた質問: GTE という就労目的ではないことをアピールするための文章を作成する必要があります。調べると例が見つかるので, それを参考にして作文しました。</p>

他に留学に必要な準備	<ul style="list-style-type: none">・ 海外旅行保険に加入（国際センターの方が紹介してくれます） <p>以下が銀行関連の手続きです。時間がかかるので、出国の1か月半ぐらいまでには手続きに着手したほうが良いかと思えます。</p> <ol style="list-style-type: none">① 日本国内で利用している銀行（私の場合は三菱UFJ）のアプリのワンタイムパスワードの利用解除をし、ワンタイムパスワードカードの発行をする② カードが届いたら、外国送金利用申し込みをする（外国送金先口座登録は出国後にオーストラリアで口座開設をした後でも問題なかったと思えます）③ 上記がすべて終わったら、海外住所の届け出（先にカードを受け取らないと三菱UFJ銀行の場合は海外住所からの送金の利用ができません） <p>ビザの取得より先に留学先大学から CoE を受け取っておく必要があります。下記が必要提出書類です。</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 英語の成績証明書✓ IELTS の成績表✓ 記入済みの QUT English Program Confirmation✓ Supporting Unit Outlines✓ パスポート <p>以下は、プログラムの申し込みの流れです。</p> <ol style="list-style-type: none">① Apply for study abroad(https://www.qut.edu.au/study/applying/study-abroad-and-exchange/study-abroad)を参照し、How To Apply のセクションを読んで理解をし、どのプログラムにするかを定める② プログラムによって履修可能な科目や数が異なるため、QUT の サイト (https://www.qut.edu.au/study/applying/study-abroad-and-exchange/what-can-i-study)を参考にしながら履修したい科目を多めにリストアップしておく③ Units requiring approval に希望の履修科目がある場合は、電大で今まで履修した内容が関連しそうな授業の成
------------	--

	<p>果物や学んだ内容等をまとめたドキュメント（自由形式）の Supporting Unit Outlines を添付する必要がある</p> <p>④ QUT English Study Abroad / Exchange のフォーム（PDF）を貰い、任意のプログラムを選択・記入し、申請する（私は国際センターの方経由でフォームを貰いました）</p> <p>⑤ QUT Portal で②のフォームを添付し、履修希望の科目を提出する</p> <p>⑥ 提出から 1 か月半ほどで QUT Study Abroad and Exchange から履修可能な科目のリストが書かれた Offer Letter が添付されたメールが届く</p> <p>⑦ メール内の指示に従ってオファーをアクセプトする</p> <p>⑧ オファーアクセプト後から 1 か月ほどで CoE が添付されたメールが届く</p> <p>⑨ CoE 入手後にビザの申し込みを行う</p> <p>⑩ 履修登録は 12 月初旬に始まるので（リマインダーがあります）、そこで Semester 1 で Offer Letter に記載された科目から履修したいものを選択</p>
--	--

現地到着後	
<p>現地での出迎え</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無</p> <p>有→<input checked="" type="checkbox"/>大学関係者 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>無→空港から大学までどのように移動しましたか？</p> <p><input type="checkbox"/>電車・地下鉄 <input type="checkbox"/>バス・トラム <input type="checkbox"/>タクシー</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>事前申請が必要ですが、QUT が委託したドライバーが空港でピックアップしてくれます</p> <p>(https://www.qut.edu.au/study/student-life/support/airport-reception)</p>
<p>オリエンテーションの有無／時期／内容</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無</p> <p>時期：2 月と</p> <p>内容：留学中の過ごし方，オーストラリアの文化についての紹介，クラブの勧誘，キャンパスツアー</p>
<p>渡航後必要な手続き</p>	<p>✓ 在留届（オンラインで申請）</p> <p>✓ OSHC の Activation</p>

	✓ 学生証発行の申請と受け取り
大学の雰囲気	<p>シティに位置するガーデンズポイントは、にぎやかで都会な雰囲気ながらも、近くにボタニックガーデンという大き目の公園があり、リフレッシュできる感じでした。留学生や大学院生が多いため、さまざまな人種や年齢層の人が居ました。</p> <p>ケルヴィングローブは、シティから少し離れており、キャンパスも広いため、のどかな雰囲気でした。近くに QUT 付属の高校とカレッジがあるため、キャンパス内の学生は年齢層が若めでした。</p> <p>いずれのキャンパスにもバーがあり、お酒を楽しめるのですが、授業後になるとガーデンズポイントではビリヤードを楽しむ学生や、ケルヴィングローブでは映画クラブがトリビア大会をしたりしていました。特にテスト期間後は特に賑わっていた印象でした。</p>

生活について	
住居の種類	<input type="checkbox"/> 寮（寮名）： <input checked="" type="checkbox"/> アパート： Unilodge を利用しました <input type="checkbox"/> その他（ ）
住居の場所	<input type="checkbox"/> キャンパス内 <input checked="" type="checkbox"/> キャンパス外 キャンパスまでの距離： <input checked="" type="checkbox"/> 徒歩 <input checked="" type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> 電車・地下鉄 <input type="checkbox"/> その他（ ）で約 分 ガーデنزポイントキャンパスまで：徒歩約 10 分 ケルヴィングローブキャンパスまで：バスで約 10 分
部屋の種類／同居人	<input checked="" type="checkbox"/> 1人部屋 <input type="checkbox"/> 2人部屋 その他 同居人： <input type="checkbox"/> 有（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 無
共有部分	<input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> キッチン <input type="checkbox"/> その他（ ）
食事	<input checked="" type="checkbox"/> 自炊 <input type="checkbox"/> 寮食 <input type="checkbox"/> 大学内学食 <input type="checkbox"/> 外食 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ミールプランへの加入	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 有→加入したプラン（ ）
住居について注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの学生向けのアパートは申込が早ければ早いほど early bird として安いレントで確保できますし、滞在先不足が問題となっているので滞在先確保には早めに動く方が良いです。 ・ 学生向け以外に Flatmate 等でハウスメイトを探している ・ 奨学金にカバーされない敷金(Bond)を自前で用意しておく必要があります。私の場合は 18 万円弱でした。 ・ 基本的には、こちらから問い合わせない限りは家賃の支払い方法や時期、退去方法を教えてくれないため、入居時に気になることはメールか、あるいは直接問い合わせた方が良いです。 ・ 入居時と同じレベルの部屋のキレイさが退去時に求められるため、入居時は部屋の状態が確認できるように写真をたくさん撮ると良いと思います。 ・ 退去時の清掃は自分でやるか、アパートが契約している業者に依頼するか(私の場合は\$250 でした)のどちらかです。業者に頼む場合は費用が割高である代わりに敷金の全額返金を保証してくれるようです。一方、部屋が損傷してお

	<p>らず、そこまで掃除が大変ではない場合は、自分で清掃した方が安く済むことが多いようです。私は自身で掃除して清掃費\$50で済みました。自分で清掃する場合は、スタッフから退去時に部屋の状態を確認するのチェックリストを共有してもらい、それを参考にしながら行くと良いと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リース期間は厳格に決められているため、退去日がいつになるかは注意して選んだほうが良いです。6か月/12か月単位でしか借りることのできない学生向けアパートも多く、契約終了日より早く退去する場合は残った期間の家賃も払い続ける必要があります。私は入居日と退去日が自由に指定できる場所にしました。 ・ 敷金の返金は退去から1か月ほどかかります。オーストラリアで開設した銀行に返金してもらうのが一番早いです。
銀行開設	<p><input checked="" type="checkbox"/>行った <input type="checkbox"/>しなかった 銀行名：Commonwealth bank 銀行によっては開設時にマイナンバーが必要です。持っていない方は、発行しておくとの良いです。私は未発行だったため、事情を説明し、通知カードに記載された番号で登録をしてもらいましたが、イレギュラー対応だったと思います。</p>
生活費等支払い手段	<p><input type="checkbox"/>現金 <input checked="" type="checkbox"/>クレジットカード <input checked="" type="checkbox"/>デビットカード <input type="checkbox"/>海外専用プリペイドカード（キャッシュパスポート等） <input type="checkbox"/>その他（ ） アドバイス：銀行時口座開設までは日本から持参したVisa/Mastercardのデビット/クレジットカードを使用していました。開設後は現地銀行のデビットカードのようなEFTPOSというコンタクトレス決済が主な支払い手段でした。 オーストラリアの銀行口座の残額が減ってきたら日本の口座から、額が大きい場合は銀行の海外送金サービス、額が大きい場合はWiseで送金をしていました。</p>
携帯電話	<p><input type="checkbox"/>購入した <input checked="" type="checkbox"/>しなかった SIMフリーかつデュアルSIMの端末だったため、スーパーでAmaysimのSIMを購入し、30GB/毎28日に30AUDのプランを使っていました。大学もアパートもWi-Fiがあったので、ほとんどデータ量を使い切ることはありませんでした。 Amaysimは国際電話かけ放題である点が魅力的でしたが、も</p>

	う少し安めかつデータ量が少ないプランにしてもよかったかなと思います。
現地での友人等との連絡手段	<input type="checkbox"/> LINE <input type="checkbox"/> Facebook <input type="checkbox"/> WhatsApp <input type="checkbox"/> Gmail <input type="checkbox"/> iMessage <input checked="" type="checkbox"/> その他 (Instagram, Messenger, Snapchat)
病気や怪我等での通院	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 有→ <input type="checkbox"/> 大学内のクリニック <input type="checkbox"/> 最寄りの医療機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (日本人医師が居る General Practice)
医療関係の注意事項等	<p>オーストラリアでは General Practice(通称 GP)と呼ばれるところに最初かかります。日本のように最初から専門医に診てもらうことは稀で、GP は日本で言う総合クリニックのような機関になります。</p> <p>基本的に風邪などの重くない症状であれば、保険でカバーされるので、気になったらすぐ行くと良いかと思います。大学で加入した保険は対象機関で診てもらおうと翻訳サービスが付くため、利用するとスムーズかもしれません。保険を利用する関係で書類等の記入があるので、受け取った保険関連の書類一式は診察時に持っていくと安心です。</p> <p>歯に関するトラブルは体験していないのでわかりませんが、渡航前に治療し、留学中は口腔ケアを怠らないことが大事かと思います。歯ブラシはヘッドがとても大きいものしかないので、こだわりがある場合は日本から持参するのを強くお勧めします (オーストラリアは甘いお菓子や飲み物が多いので摂りすぎに注意です！)</p>

授業について	
授業期間	2023年 学期： 2月27日～6月24日 2023年 学期： 7月24日～11月18日
履修登録	<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 時期： 1月頃 方法： <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> 志願書類に記入 <input type="checkbox"/> 国際オフィス等 <input type="checkbox"/> その他 () Semester 2 の分の履修登録は6月頃でした。
履修した科目名	(2023年1学期) <ul style="list-style-type: none"> ・ QCD110 Academic Communication 1 ・ QCD210 Academic Communication 2 ・ IFN591 Principles of User Experience ・ IGB180 Computer Games Studies (2023年2学期) <ul style="list-style-type: none"> ・ CYB103 Communication Theory and Practice ・ DYB124 Design Consequences ・ IFN623 Human Information Interaction ・ IFN692 Interaction Design for Emerging Technologies
授業・履修に関する注意事項	留学当初のシステムでは、履修に2ステップありました。 ① Unit enrolment...科目の登録 ② Class registration...Enrolした各科目の開講予定の時間割から履修したい時間と曜日のクラスを選択する Class registration では人気のあるクラスは先着で予定の定員が埋まってしまうことがあるため、登録開始日になったらなるべく早く登録することをお勧めします。定員が埋まってしまった場合は Waitlist に登録された後に、大学側で調整をして別時間帯の同クラスを受けるよう割り振られることがあります。 複数のクラスの時間帯が重なる場合はある程度自分で調整できますが、どうしても解消できない場合/不明点がある場合は各キャンパスの図書館に併設してある HiQ という場所で相談に乗ってもらえるので、尋ねることをお勧めします。

費用について			
項目	詳細	費用	支払方法
渡航費	往復分	¥374,170	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード

	帰国便の追加手荷物料金 (10kg)	¥27,855	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
ビザ申請料		¥64,738	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
住居費	469AUD/週 × 41 週分 - Deposit (賃貸料 2 週間分)	¥1,719,354	<input checked="" type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
	Deposit (賃貸料 2 週間分 + 手数料)	¥90,869	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
	過払い分の家賃の返金(週の 半ばに退出したため)	-¥ 64,993	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
	退去時の清掃費	¥4,700	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
	洗濯や掃除器利用のチャー ジ	¥20,000	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
学費	Annual Fee(19,200AUD - Tuition deposit5,000AUD)	¥1,334,800	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
	Acceptance Payment (OSHC 758.65AUD + Tuition deposit 5,000AUD = 5,758.65AUD)	¥556,127	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
教材費	電子で閲覧可能だったた め、購入する必要はありま せんでした	¥0	<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> クレジットカード
保険料	学研災付帯 海外留学保険 プラン B	¥141,440	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
食費	自炊のみ、外食費は別	¥160,800	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
日用品	調理器具、寝具等	¥21,620	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
交通費		¥22,654	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
通信費	Amaysim \$30/30GB/28 日	¥25,452	<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード
ホテル宿泊費 4泊分	到着日からアパート入居日 までの宿泊費	¥154,348	<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> クレジットカード
総額 (概算)		¥4,653,934	

留学のきっかけ

幼いころに英会話教室に通ったことから、海外の映画やドラマ、音楽に興味を持ち、海外の文化に強く惹かれてました。その後、中学の時にカナダに1週間程度ホームステイする機会があり、長期的な留学ができないか長年模索していました。

大学に入り、新入生のオリエンテーションで、神山治貴海外留学派遣奨学金制度があることを知りました。当初は最も良い成績を取ることが奨学生になる条件だったので、「いつか奨学生になれたらいいなあ」と頭の隅で考えながら勉強に励んでいましたが、学部4年次でようやく奨学生になる条件を満たしました（正直難しいと思っていたので大変嬉しかったです）。その当時、自身の専門(HCI, Human Computer Interaction)について知識を深めるうちに、海外ではその分野の研究が盛んであることが分かり、英語をツールとして自分の専門性を高めたいと感じていたこともあり、留学しようと決めました。

留学の目的

自分の専門分野(HCI)に関連する授業を受け、専門性を高める。

電機大学では学べない分野の授業を受け、知識の幅を広げる。

他国の文化を学び、自身の視野を広げ、学びのモチベーションとする。

留学生活（学習面）

私は自由に8科目を履修できる Study Abroad Year を目指していましたが、IELTS の Overall Band Score は 6.5 を取得していましたが、Writing と Speaking のスコアが足を引っ張り、語学要件の sub-score less than 6.0 を達成できませんでした。そのため、2科目分を ESL 向けの英語の授業を取る条件付きの Study Abroad Year with communication units で出願しました。

しかし、QUT の計らいで、最終的には Study Abroad Year に合格し、8科目を自由に履修できることになりました。

Semester 1 では、英語の授業に慣れるため、communication units の ESL の学生向け（主に留学生）の授業を履修しました。この授業では、学術的な英語の Writing, Reading, Speaking について学習しました。

具体的には、Signposting や学術的に聞こえる単語の言い換えなどを勉強し、その後の英語でのレポート作成に非常に役立ちました。また、実際に自身で興味のある論文を選び、授業で提示された論文と比較して literature review を作成する課題にも取り組み、非常に力が付きました。

英語のレベルに関係なく、ESL の学生向けの授業（特に Academic communication）は履修することをお勧めします。

オーストラリアは、OzCHI などの HCI 関連の学会が有名で、HCI の研究が盛んです。私は授業で電機大学で学んだ知識を活用しつつ、英語圏ではどのようなトピックが取り上げられるのかを学ぶことが刺激になりました。

特に「Principles of User Experience」という授業では、QUT が提供する Well-being アプリの改善をテーマに取り組みました。半構造化インタビューなど、電機大学でも学んだ手法を利用しつつ、Affinity Diagram や Photo Elicitation など新しいメソッドを用いてユーザビリティの評価を行いました。インタビューもすべて英語で行う必要があったため、非常に大変でした。最終的に、レポートは付録を含めて 100 ページを超え、これを執筆しているときが一番辛かったです。しかし、この時に辛い経験をしたため、Semester 2 では少し自身が付いた気がします。

また、電機大学では学ぶ機会がなさそうなビデオゲームを学術的視点から見ていくオムニバス形式の授業や、映画やドラマ、広告などのメディアの表象を分析する授業も履修しました。両方の授業では Male gaze や特定のジェンダーへのステレオタイプ的な描写について学ぶ機会があり、非常に新鮮でした。

さらに、「Design Consequences」という授業では、デザインと社会の関わりを見てきました。デザイン論として“Transition Design”や“Pluriverse Design”など、地球規模で社会の価値観の移行を実践するというフレームワークを学び、ジェンダー表象など社会課題の一部を学ぶことの有意義さを実感しました。

日本とは違い、授業ではかなり学生からの発信が多かったです。しかし、質問やコメント内容が非常に優れているということではなく、疑問に思ったことや感じたことを素直に発信しても咎められない環境があると感じました。実際、キャンパスには「safe zone」と書かれたポスターが多く、先住民や性的マイノリティ、人種に対しての差別は許容しないと強く発信しており、そういったインクルーシブな環境が勉強のしやすさにつながっているように感じました。テスト前になると大学から「テストや課題に不安を覚える学生は、大学で用意された然るべきところで相談してほしい」とメールが来るため、精神面でのサポートも用意されており、安心して学習できる環境が整備されている印象でした。また、図書館が 24 時間毎日空いているため、勉強するのに非常に重宝しました。

留学生活（生活面等）

物価が高かったため、基本的には近くのスーパーで買い物をし、自炊をしていました。時間に余裕があるときは、価格の安い Aldi、新鮮かつ大き目の野菜が手に入る Harris farm Markets などにも出向くこともありました。

履修科目数が多かったため、帰宅後や週末は課題や予習に充てるが多かったです。**Semester 1**では精神的にも時間的にも余裕が無く、ほとんど大学とスーパーとアパートの往復でした。その中で、**QUT Anime Club**というアニメを鑑賞するクラブに入部し、週一で近くに住む友達と参加をし、息抜きになっていたと思います。**Brisbane**はアニメ好きが多いようで、鬼滅の刃や僕のヒーローアカデミア、呪術廻船が現地の学生からも人気でした。日本のポップカルチャーのトレンドは驚くほどリアルタイムで多くの学生がキャッチアップしており、日本人の私以上に詳しいのではないかと圧倒されることもありました。

大学院生向けだったり、オンラインで座学をする授業が多かったため、オーストラリア出身の現地学生との交流はあまり多くはなく、自分と同じように留学しに来ている学生と出会うことが多かったです。日本人学生は語学留学を兼ねて団体に短期留学をしていることがほとんどで、予想以上にキャンパスでは触れ合う機会はなかったように感じます。私は交換留学で来ていたノルウェーからの学生たちと **International students** 向けのパーティーで知り合い、親しくなりました。今まで見たことがなかったユーロビジョンを早朝に集まって視聴する機会があり、オーストラリアに居ながら、ヨーロッパの文化に触れることができました。そのように、その子たちと遊びに出かけたり、勉強をしたりしていました。自分が勉強に精一杯でひきこもりがちだったため、週末に観光しようと誘ってくれた友人がいたおかげで **Semester 1** を終えられたと思います。

Semester 1 後の冬期休暇では勉強で多忙だった反動でのんびり過ごしていました。その中で、ノルウェーからの友人が帰国してしまったため、新たなコネクションを作ろうと一念発起し、ひよんなことから **Griffith University** に通う現地のオーストラリア人の学生と知り合いました。その子は犬を飼っていたため、よく散歩に同行させてもらいました。オーストラリアはかなりペットフレンドリーなため、東京と比較すると数も多く、中型以上の大き目の犬が多く飼われていました。ドッグランで様々な犬と接する機会が多かったのは、予想もしない経験でした。夜になるとポッサムをよく見かけたのもオーストラリアならではの体験でした。

Semester 2 終了後は **New Zealand** の **Auckland** に旅行に行きました。、かつて自分が幼少期に通っていた英会話教室の先生のご厚意で、ご自宅に宿泊させてもらい、地元を案内していただきました。特に、**Auckland Museum** では **NZ** の地理的なコンテンツから、マオリ (**NZ** の先住民族) や近代の戦争に関する歴史的なものも展示されており、非常に見ごたえのある場所でした。特に大日本帝国時代の日本軍に関する展示もあり、他国の視点で負の側面も含めた自国の歴史を学ぶことができました。また、先生はマオリの出自でも

あり、当事者から文化の話を直接聞く機会が多く、興味深かったです。非常に貴重かつ有意義な旅行となりました。

留学を通して得たもの

- 自身の語学力への自信
正直なところ、語彙力という面では著しい向上はしていないと思うのですが、自身が今まで培ってきた英語で十分にコミュニケーションが取れることを実感できたことが自信につながりました。英語を使うことの抵抗がかなり無くなりました。
- Academic Integrity (学術の誠実性、公平性) への意識
電機大学でも研究者倫理で触れられますが、より厳しく倫理観については授業で触れていたと思います。例えば、自身の過去の文章を再利用する **self-plagiarism** も誠実性という観点では良くないと授業で学び、以前の私はそれに対して問題意識がそこまでなかったため、大変驚きました。引用元の表記は徹底するよう注意されますし、直接文章を引用するのではなく、自身の言葉で言い換えることが望ましいとも言われました。これらの教えが、研究倫理の重要性について再認識させてくれました。
- 自国外の文化に触れることによる視野の広がり
日本では中々経験できないという場面を通じて、多くの学びがありました。特にオーストラリアやニュージーランド固有の歴史的事象やそれらから生じた社会的な課題、さらには英語が主な公用語であることからの欧米文化との密接さから生まれる多様な文化が「こういう考え方があるんだ」という刺激になりました。それらが、私の考え方をより豊かにしてくれたように思います。

今後の学習計画

言語交流会への参加や英語のメディアに触れることで、英語に触れる機会を増やしていきます。留学で下がった英語への心理的ハードルを維持していくつもりです。
現地では余裕の無さから実践が難しかった語彙力の強化をし、TOEICなどの英語の試験を受け、学習の成果を試したいと思います。

留学を考える方へメッセージ

電機大学では正直なところ英語への苦手意識の高さから「留学したい！」と考える方は、まだ数多く居ないと思います。ただ、語学力の低さを理由に海外に行かないのはもったいないと思います！日本を飛び出して、英語圏のみならず、非英語圏で数日間過ごすだけでも、異文化を経験することは今後の自分の財産になるはずです。

しかしながら、英語が分かることでさらに世界が広がりうることは否定できません。語学はツールの側面が大きいので、英語が理解できるだけでも得られる情報がダントツに増えます。電機大学の英語の先生は基本的に学生からのアクションはウェルカムですし（むしろもっと授業の質問やコメントが欲しいと思っているほど）、**English Lounge** で英語を話す機会を国際センターの方が設けてくれています。また、学外の **Language Exchange** などのイベントに参加することも英語学習の助けになると思うので、意欲のある方はぜひ利用してみてください。当然ですが、世界にある言語は英語だけではありません。第一言語以外の言語を学びたいという意欲のある方はその時点で大変すばらしいので、ぜひその意欲を途絶えさせないよう頑張ってください。

留学となると、不景気な世の中かつ円安が進んでいるため、中々経済的にも厳しい方が多いと思います。私も金銭的な理由から、留学は難しいと思っていました。そんなところに、神山治貴海外留学派遣奨学金制度が私に貴重な機会を与えてくださいました。私が奨学生になった当初は、非常に給付対象者の基準が厳しかったのですが、現在は緩和されて学長賞受賞経験者以外の方にもチャンスがあるようです。私自身、電大で「奨学金制度を利用したいけど、受給対象の条件に入らないから…」と話す学生に複数名出会ったことがあります。受給対象者の基準緩和についてはそういった意欲の高い人にも海外での学びの機会が与えられると思うので、電大としても将来的に非常に良いことだと考えています。この度は基準緩和をしていただき、ありがとうございました。

ぜひ、留学をしたい方は、神山治貴海外留学派遣奨学金制度を励みに勉学に励んでいただければと思います！

一方で、私がこのように大学で留学を経験できたのは、恵まれた環境にいたことも大きいと感じています。私が精神的・身体的、経済的などその他様々な要因の理由によって、全力で勉学に打ち込むことのできる環境に居なかったら、この経験はできていないと思います。まさにそういった環境の学生も居り、かつ「留学したい」と思う方も存在するはずです。無責任な言葉かもしれませんが、そんな方にも留学のチャンスが巡ってくるように願っています。また、私の学んだことがそういった方々の助けになるよう、精進していきたいです。そして、私のこの報告書がそういった方を含んだ様々な学生に少しでも役立つ

ことがあれば、大変光栄です。